

平成29年度の概要

1. 事業について

- (1) 公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、平成22年10月1日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。

この事業報告及び決算報告書は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの期間についての当法人の事業活動を取りまとめたものである。

- (2) 平成29年度は、第一三共株式会社からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公1）並びに研究業績褒賞事業（公2）に区分して実施した。

助成事業 （公1）	1. 研究助成 （1）研究助成 （2）PIセットアップ研究助成（本年度休止） 2. 海外共同研究支援助成 3. 研究会・シンポジウム開催助成 4. 海外留学奨学研究助成
研究業績褒賞事業 （公2）	1. 研究業績褒賞（第15回高峰記念第一三共賞） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（第34回高峰カンファレンス）

- (3) 本年度は、隔年度実施の助成事業の内、海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成を実施し、PIセットアップ研究助成は休止とした。

2. その他について

- (1) 指定寄附金収入

第一三共株式会社より、平成29年4月20日、指定寄附金として、1億4千5百万円を受領した。

- (2) 主要事業活動報告

- ①平成29年4月14日の第15回選考委員会において、平成29年度海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成の候補者並びに第15回高峰記念第一三共賞第二次候補者の選考を行った。
- ②平成29年5月17日の第15回高峰記念第一三共賞審査委員会において、同賞の最終候補者を決定した。

- ③平成29年6月2日の第27回理事会において、平成28年度の事業報告及び決算報告書、平成29年度海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成者の決定、第15回高峰記念第一三共賞受賞者の決定、任期中辞任に伴う選考委員補充、「評議員会の日時及び場所並びに目的である事項」の各件について審議され、承認された。
- ④平成29年6月21日の第10回評議員会において、平成28年度決算報告書の件について審議され、承認された。
- ⑤平成29年6月22日、内閣府に平成28年度事業報告等を提出した。
- ⑥平成29年10月19日の第16回選考委員会において、平成29年度研究助成候補者及び平成30年度海外留学奨学研究助成候補者の選考を行った。内、平成30年度海外留学奨学研究助成については、平成29年11月17日に内定者（5名）の面接を実施した。
- ⑦平成29年12月5日の第28回理事会において、平成29年度研究助成対象者決定、平成30年度海外留学奨学研究助成対象者決定、高峰記念第一三共賞審査委員改選、平成30年度事業推薦・応募要領、助成（褒賞）候補者推薦依頼先の各件について審議され、承認された。
- ⑧平成30年2月2日の第29回理事会において、平成30年度事業計画、収支予算、資金調達及び設備投資の見込み、新理事選任の臨時評議員会（見なし決議）実施及び平成30年度海外留学奨学研究助成辞退に伴う予算執行変更の各件について審議され、承認された。
- ⑨平成30年2月2日、第15回高峰記念第一三共賞の贈呈式を開催した。
- ⑩平成30年2月22日、内閣府に平成30年度事業計画書等を提出した。
- ⑪平成30年2月27日、見なし決議による第11回評議員会にて、新たに理事1名が選任された。
- ⑫平成30年3月1日、役員変更に伴う登記を行った。
- ⑬平成30年3月9日、内閣府に役員変更に伴う変更届を行った。
- ⑭平成30年3月16日、第34回高峰カンファレンスを開催した。

(3) 人事関係

- ①平成30年3月31日現在の関係者の人員数について、役員は、理事17名（1名増）、監事2名。評議員9名。選考委員20名（1名増）。研究業績褒賞に係る審査委員（高峰記念第一三共賞審査委員）は任期満了に伴う改選が行われ、6名。顧問7名。職員2名。
- ②理事について、眞鍋淳氏が見なし決議による第11回評議員会（平成30年2月27日）において、新たに理事に選任され、3月1日付で就任した。

- ③選考委員について、伊藤貞嘉選考委員が平成29年5月31日付で辞任し、第27回理事会（平成29年6月2日）において、前年11月30日付で辞任した竹田秀選考委員を含む2名の任期中辞任に伴う選考委員の補充が行われ、2名が新たに就任した。
- ④高峰記念第一三共賞審査委員について、第28回理事会（平成29年12月5日）において、任期満了に伴う改選が行われ、矢崎義雄委員が退任し、1名が就任した。
- ⑤職員について、今田純子職員が平成29年3月31日付で出向元に帰任し、田川裕子氏が同年4月1日付で、第一三共株式会社から出向により、当法人へ職員として、着任した。

平成29年度事業報告

1. 事業の総括

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	1. 研究助成 (1) 研究助成 (定款第4条 (1))	55,000千円	平成28年度 @100万円×25件 平成29年度 @100万円×30件
	(2) PIセットアップ研究助成 (定款第4条 (1))	－千円	@300万円 (本年度休止)
	2. 海外共同研究支援助成 (定款第4条 (2))	4,000千円	@50万円×8件
	3. 研究会・シンポジウム開催助成 (定款4条 (3))	1,500千円	@50万円×3件
	4. 海外留学奨学研究助成 (定款第4条 (4))	29,500千円	平成28年度 @50万円×6回×4件 @50万円×5回×1件 平成29年度 @50万円×6回×5件
	その他助成事業費	26,992千円	
	助成事業計	116,992千円	
研究業績褒賞事業 (公2)	1. 研究業績褒賞 (定款第4条 (5))	11,115千円	第15回高峰記念第一三共賞
	2. 研究業績褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催 (定款第4条 (5))	6,237千円	第34回高峰カンファレンス
	その他研究業績褒賞事業費	10,534千円	
	研究業績褒賞事業計	27,886千円	
合計		144,878千円	

2. 助成事業 (公1)

2.1 平成29年度研究助成 (定款第4条 (1))

(1) 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。

(2) プログラム：研究助成はふたつのプログラムよりなる。

①研究助成

②PIセットアップ研究助成 (本年度休止)

(3) 募集対象

①研究助成：日本国内在住の生命科学分野を専攻し、優秀、かつ最先端の研究をする50歳未満（平成29年4月1日現在）の研究者。

②PIセットアップ研究助成

- (a) 研究責任者（PI）として、実施前々年度、実施前年度に、原則、研究機関間の移動を伴って日本国内で新たに研究ユニットを立ち上げた、或いは実施年度に立ち上げ予定の研究者。申請時点で海外滞在者を含む。
 - (b) 研究ユニット立ち上げに必要な研究用汎用機器及び備品類の購入可。
 - (c) 当法人の他種助成金と重複して助成を受けることが可。
 - (d) 実施年度現在で45歳以下の研究者。
- (4) 募集規模
- ①研究助成
 - (a) 1件当たり200万円（助成期間は、平成29年度以降2年間）
 - (b) 採択数：新規30件 択数：新規30件以内（継続分も含め、原則、55件以内）
 - ②PIセットアップ研究助成
 - (a) 1件当たり300万円（助成期間は、実施年度以降3年間）
 - (b) 採択数：新規5件以内
- (5) 募集方法:当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長等、研究機関長並びに当法人の評議員・理事・顧問、過去の褒賞受賞者（高峰記念第一三共賞）宛にポスター等送付し募集する。
- (6) 応募方法
- ①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長等、研究機関長等並びに当法人の評議員・理事・顧問、過去の褒賞受賞者（高峰記念第一三共賞）を推薦者として、応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付する。
 - ②応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼する。
 - ③推薦者は応募者の中から、応募者選定のためのガイドラインに基づき、原則1名を公正かつ適正に選定する。
 - ④応募者は、推薦書を取得後、当法人ホームページ掲載の助成Web登録システムを通じて、推薦書及び申請書等をデータ送信。当法人事務局より確認連絡及び受付番号を取得後、当該申請書一式をコピーし、応募受付締切日までに、当法人事務局宛に送付する。
 - ⑤応募受付期間
 - (a) 研究助成：平成29年4月1日～5月31日
 - (b) PIセットアップ研究助成：本年度休止（隔年実施）
 - ⑥応募数
 - (a) 研究助成：189件
- (7) 選考方法
- ①研究助成：第16回選考委員会による選考結果をもとに、第28回理事会にて30名の

助成対象者を決定した。

(附属明細書 資料-1：平成29年度当該助成採択者参照)

- ②PIセットアップ研究助成：選考委員会による選考結果をもとに、理事会にて助成対象者を決定する。

(8) 助成金の交付

①交付方法：原則、所属機関の研究奨学金口座を通じて交付する。

②交付時期

(a) 研究助成：2度に分けて交付する（100万円/年度）。

(ア)初年度：平成30年1月10日～2月20日に交付完了。

(イ)次年度：平成30年10月頃予定。

(b) PIセットアップ研究助成：一括交付する（300万円）。

(9) 研究成果の公表

①助成者は、助成期間終了後、論文を当法人に提出する。

②助成者は、助成期間終了後、収支決算報告書を当法人に提出する。

③助成者の研究成果論文を基に、研究報告集を作成し、当法人関係者、助成者並びに大学等研究機関の図書館に寄贈する。なお、本年度は、研究助成、海外留学奨学助成の助成者の成果論文について、当該報告集Vol.33として、平成29年10月30日に発刊し、289箇所寄贈した。

④助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページにて掲載した。

2.2 平成29年度海外共同研究支援助成（定款第4条（2））

(1) 概要：海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。

(2) 募集対象

①海外の学者との共同研究を行っている、日本国内在住の生命科学分野を専攻する研究者で、海外の研究者との共同研究を目的とした、海外渡航或いは海外の研究者を招聘する者。

②助成対象期間：平成29年7月1日から平成31年6月30日に実施するもの。

③平成29年4月1日現在で50歳未満の研究者。

(3) 募集規模

①1件当たり50万円

②採択数：研究会・シンポジウム開催助成と併せて10件以内

(4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一

(5) 応募方法

①応募方法は、「研究助成」と同一

②応募受付期間：平成29年1月15日～2月28日

③応募数：22件

(6) 選考方法：第15回選考委員会による選考結果をもとに、第27回理事会にて8名の助成対象者を決定した。なお、研究会・シンポジウム開催助成と併せた本年度の採択数は11件となった。これは、前回（平成27年度）は採択後辞退者もあり、助成金支給者が最終的には両助成併せて8件に留まったことから、今回は両助成併せて11件を選考委員会が推薦したためである。

（附属明細書資料-2：平成29年度当該助成採択者参照）

(7) 助成金の交付

①交付方法：原則、所属機関の研究奨学金口座を通じて交付する。

②交付時期：平成29年6月20日から7月10日に交付完了。

(8) 成果：実施終了後、実施報告書並びに収支決算報告書を入手する。

2.3 平成29年度研究会・シンポジウム開催助成（定款第4条（3））

(1) 概要：萌芽的な研究をテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。

(2) 募集対象

①生命科学分野に関する国際シンポジウムの中で、過去に海外で開催され、助成対象期間に日本にて開催される国際シンポジウムの開催助成。

②当該研究会・シンポジウムの規模は、参加人員：国内・海外合わせて500名以内程度で、他の団体より、大型の寄付を受けていないもの。

③助成対象期間：平成29年7月1日から平成31年6月30日に実施するもの。

(3) 募集規模

①1件当たり50万円以内

②採択数：海外共同研究支援助成と併せて10件以内

(4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一

(5) 応募方法

①応募方法は、「研究助成」と同一。但し、推薦書は不要。

②応募受付期間：平成29年1月15日～2月28日

③応募数：9件

(6) 選考方法：第15回選考委員会による選考結果をもとに、第27回理事会にて3件の助成対象者を決定した。(2.2 (6)：海外共同研究支援助成選考方法参照)

（附属明細書資料-3：平成29年度当該助成採択者参照）

(7) 助成金の交付

①交付方法：助成対象研究会・シンポジウム指定銀行口座に交付する。

②交付時期：平成29年6月20日に交付完了。

(8) 成果：実施終了後、実施報告書等並びに収支決算報告書を入手する。

2.4 平成30年度海外留学奨学研究助成（定款第4条（4））

- (1) 概要：海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。
- (2) 募集対象
 - ①原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下である者。なお、6年制学部卒業者は37歳以下である者。（平成29年4月1日現在）
 - ②海外の大学等研究機関において、1年間以上研究に従事することを計画している者。
- (3) 募集規模
 - ①1件当たり600万円（助成期間は、平成30年度以降2年間）
 - ②採択数：5件以内
- (4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一
- (5) 応募方法
 - ①応募方法は、「研究助成」と同一
 - ②応募受付期間：平成29年4月1日～5月31日
 - ③応募数：59件
- (6) 選考方法
 - ①第16回選考委員会による選考結果をもとに、内定候補者を決定。その後、内定候補者の辞退があったため、選考委員会にて承認された手続きに則り順次繰り上げ、上位者5名を内定候補者とした。
 - ②平成29年11月17日に、選考委員長、他選考委員を面接官として、内定候補者の面接を実施し、最終内定者（5名）を決定した。
 - ③第28回理事会にて5名の助成対象者を決定した。
（附属明細書資料-4：平成30年度当該助成採択者参照）
 - ④平成29年12月20日、1名の辞退者があった。
- (7) 交付時期：平成30年4月より、年6回、2ヶ月毎に、50万円を助成交付者の指定銀行口座へ入金する予定。
- (8) 研究成果の公表：「研究助成」と同一

3. 研究業績褒賞事業（公2）

3.1 研究業績褒賞（定款第4条（5））

- (1) 概要：当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。
- (2) 褒賞名：第15回高峰記念第一三共賞
- (3) 褒賞対象者：生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研究者。
- (4) 推薦方法
 - ①理事会において選定された全国の生命科学分野の大学院研究科長・研究所長等、研究機関長、又は、当法人の理事・評議員・顧問・選考委員、過去の褒賞受賞者に推薦を依頼した（但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者より除く）。
 - ②推薦期間：平成29年1月15日～2月28日
 - ③推薦件数：本年度は、14名の推薦があった。
- (5) 選考方法
 - ①第一次選考：第15回選考委員会により応募候補者の選考を行い、6名の候補者が第二次候補者となった。
 - ②第二次応募候補者に対し応募の意思の確認および応募申請の要請を行った。
- (6) 最終選考
 - ①第15回高峰記念第一三共賞審査委員会は、応募申請書及び選考委員会結果を参考に、審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。
 - ②第27回理事会において、褒賞受賞者を決定した。
 - ③受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由を当法人ホームページにて掲載するとともに、当法人出捐会社の第一三共株式会社よりプレスリリースした。
- (7) 受賞者及び受賞研究テーマ
 - ①受賞者：小川誠司博士（京都大学大学院医学研究科教授）
 - ②受賞研究テーマ：「成人T細胞性白血病の分子基盤とがんの免疫回避に関わるメカニズムに関する研究」
- (8) 褒賞の方法及び贈呈
 - ①賞状、賞牌並びに副賞（1,000万円）を贈呈した。
 - ②贈呈式を実施し、表彰した（日時：平成30年2月2日、場所：パレスホテル東京）。出席者数：61名。
 - ③贈呈式において、受賞者に講演を依頼。当日、受賞者の略歴・業績集を贈呈式参加者に配布した。

3.2 研究業績褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第4条（5））

- (1) 概要：高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学術交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。
- (2) 名称：第34回高峰カンファレンス
- (3) 開催の内容
 - ①テーマ：「ATLの病態・治療の最新の動向」
 - ②開催時期：平成30年3月16日
 - ③開催場所：如水会館
 - ④プログラム：受賞者による記念講演及び関連講演
 - (a) 記念講演
座長：中西重忠先生（京都大学名誉教授）
演者：小川誠司先生（京都大学大学院医学研究科教授）
演題：成人T細胞白血病の遺伝学的基盤について
 - (b) 講演
座長：小川誠司先生（京都大学大学院医学研究科教授）
演者1：西川博嘉先先生
（国立がん研究センター先端医療開発センター免疫TR分野 分野長）
演題：免疫ゲノム解析によるがん免疫応答の解明
演者2：松岡雅雄先生
（熊本大学大学院生命科学研究部血液・膠原病・感染症内科学分野 教授）
演題：ヒトT細胞白血病ウイルス1型の生き残り戦略と病原性発現機構
演者3：山岸誠先生
（東京大学大学院新領域創生科学研究科メディカル情報生命病態医療科学分野）
演題：成人T細胞白血病における遺伝子発現制御の異常
- ⑤応募方法及び出席者数：募集期間（平成30年1月15日～2月28日）を設定し、高峰カンファレンステーマに関連する研究を行う大学大学院、研究機関等にポスター配布、当法人ホームページより参加者を募った。その結果、74名の参加者を得た。
- ⑥開催終了後の成果物：実施内容を当法人ホームページへ掲載した。

以 上

4. 附属明細書

[資料-1]

平成28年度研究助成採択者

25名（100万円/年、2年交付）

(50音順、敬省略)

氏名	所属機関	研究課題名
飯島 則文	国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 アジュバント開発プロジェクト	性感染症を引き起こすウイルスに対する神経組織内免疫制御機構の解明
家田 真樹	慶應義塾大学医学部循環器内科	化合物による心筋直接リプログラミングと新しい心臓再生法の開発
伊藤 暢	東京大学分子細胞生物学研究所 発生・再生研究分野	肝再生の基盤を成す肝臓上皮組織可塑性の制御機構の解明
大栗 博毅	東京農工大学大学院工学研究院 応用化学部門	オリゴマー型イソキノリンアルカロイド群の迅速合成と核酸/リガンド/蛋白質三成分複合体の構築
岡 泰由	名古屋大学環境医学研究所	遺伝性小頭症発症の分子メカニズムの解明
押海 裕之	熊本大学大学院生命科学研究部 免疫学分野	DNAウイルスに対する新たな自然免疫応答機構の解明と新たな分子標的の同定
片山 義雄	神戸大学医学部附属病院血液内科	骨と骨髄の臓器連関を利用した骨髄線維症の新規治療法の開発
清中 茂樹	京都大学大学院工学研究科 合成・生物化学専攻 浜地研究室	リガンド指向性化学によるGABA受容体新規アロステリック作用薬の網羅的探索
栗本 一基	京都大学大学院医学研究科 生体構造医学講座機能微細形態学	微量ChIP-seq法による多能性基盤転写因子群の「潜在的な多能性」制御基盤の解析
胡桃坂 仁志	早稲田大学理工学術院 先進理工学研究科 構造生物学研究室	ファンconi貧血原因遺伝子産物FANCD2によるDNA鎖間架橋修復の制御機構の解明
小早川 高	関西医科大学附属 生命医学研究所神経機能部門	先天的な恐怖情動を誘発する感覚受容体遺伝子の解明
佐藤 明子	広島大学総合科学研究科	ショウジョウバエ視細胞における頂端面内部ドメイン分化“subapical differentiation”の分子機構の解明
佐藤 克明	宮崎大学医学部医学科 感染症学講座免疫学分野	免疫抑制性樹状細胞に発現する新規免疫チェックポイント分子の機能的同定とこれを標的としたがん免疫治療法の開発
柴田 淳史	群馬大学先端科学研究 指導者育成ユニット 生活習慣病分野	免疫チェックポイント活性化に関わるDNA修復反応機構の解明
清水 逸平	新潟大学大学院 医歯学総合研究科循環器内科学	心筋鉄代謝リモデリングの心不全における意義
新開 大史	北海道大学人獣共通感染症 リサーチセンター 生物製剤研究開発室	HIV-1ワクチンのためのサル内での順化プロセスを省略した新規SHIV群の開発
鈴木 健一	京都大学物質-細胞統合システム拠点	アミロイドベータ毒性発現機構の高精度1分子観察による研究
武田 朱公	大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学講座	アルツハイマー病タウ病変の脳内伝播メカニズムの解明と新規診断・治療法開発に向けた基盤的研究

氏名	所属機関	研究課題名
千原 崇裕	広島大学大学院理学研究科 生物科学専攻	脳領野サイズを規定する分子ロジック解明に向けた 遺伝統計学的アプローチ
中江 進	東京大学医科学研究所・ システム疾患モデル研究センター・ システムズバイオロジー研究分野	喘息の発症機序におけるIL-1ファミリーサイトカインの 機能解析
中岡 良和	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター研究所 血管生理学部	炎症シグナルによる肺高血圧症の病態形成機構の解 明と新規治療法の開発
丹羽 伸介	東北大学学際科学フロンティア研究所	軸索輸送の開始に関与する新規分子群の同定とその 機能解析
野田 岳志	京都大学ウイルス研究所 ウイルス微細構造研究領域	インフルエンザウイルスのゲノム間相互作用ネット ワークの同定
橋口 隆生	九州大学大学院医学研究院 ウイルス学	MERSコロナウイルスに対する細胞侵入阻害剤の基 礎研究
村山 正宜	国立研究開発法人 理化学研究所脳科学総合研究センター 行動神経生理学研究チーム	触覚知覚を生成する新皮質回路メカニズム

平成29年度研究助成採択者

30名（100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関名	研究課題名
浅原 弘嗣	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 システム発生・再生医学分野	マイクロRNAによる関節炎の病態解明と治療への応用
阿部 隆之	神戸大学大学院医学研究科 感染制御学分野	B型肝炎ウイルスの慢性持続感染機構の解明と創薬に関する研究
池田 将	岐阜大学工学部 化学・生命工学科	核酸創薬を目指す化学ケージド型核酸の開発
石谷 太	群馬大学 生体調節研究所病態制御部門 個体統御システム分野	ポリグルタミン病におけるタンパク質リン酸化酵素NLKの機能解析と、それを基盤とした新規治療法の検討
石谷 隆一郎	東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻	創薬への応用を目指したリゾフォスファチジン酸受容体の機能構造解析
内山 真伸	東京大学大学院薬学系研究科	生命科学および医薬化学を切り拓く近赤外有機色素分子の創製と応用研究
大石 由美子	東京医科歯科大学難治疾患研究所 細胞分子医学分野	サルコペニアの要因となる加齢に伴う筋衛星細胞機能障害のグローバル解析
大東 いずみ	徳島大学先端酵素学研究所 免疫系発生学分野	ヒトbeta5t多型が免疫機能におよぼす影響
長船 健二	京都大学iPS細胞研究所 増殖分化機構研究部門	Fabry病患者由来iPS細胞の腎組織への分化系を用いた新規疾患モデルの開発
尾仲 宏康	東京大学大学院農学生命科学研究科	ペプチド抗生物質のアナログ体を試験管内で網羅的に創製する手法を用い、新規作用機構を有する抗生物質を開発する
桐野 洋平	横浜市立大学大学院医学研究科 幹細胞免疫制御内科学	自己炎症性疾患成人例における遺伝学的解析と機能的解析による病態解明
久場 敬司	秋田大学大学院医学系研究科 分子機能学・代謝機能学講座	心機能調節におけるRNA制御情報の解明と治療への応用
久原 篤	甲南大学大学院自然科学研究科	セルペンチン受容体を介した体内の温度応答の新規制御機構
久保田 義顕	慶應義塾大学医学部坂口光洋記念機能形態学	臓器特異的血管パターンニングに基づく血管関連疾患の発症原理
指田 吾郎	熊本大学国際先端医学研究機構 指田研究室	がん幹細胞特異的クロマチン制御による造血器腫瘍発症の分子基盤解明
白石 航也	国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野	がん抑制遺伝子BRMのプロモーター領域に位置するinsertion / deletionバリエーションと肺がんリスクや予後との検討
新明 洋平	金沢大学医薬保健研究域医学系・ 脳神経医学研究分野	脳神経系の形成機構とその異常による疾患病態の解明
杉浦 歩	神戸大学大学院医学研究科 生化学・分子生物学講座 シグナル統合分野病態シグナル学部門	神経老化におけるペルオキシソームダイナミクスの機能と作用機構

氏名	所属機関名	研究課題名
宗 孝 紀	東北大学大学院医学系研究科免疫学分野	アレルギー肺炎の新たな制御機構の解明
竹 内 英 之	名古屋大学大学院医学系研究科 機能分子制御学	O-結合型糖鎖の調節によるT-ALL型Notch1の恒常的活性化の選択的阻害
中 川 勇 人	東京大学医学部附属病院消化器内科	脂質代謝経路を基軸としたNASH・肥満関連肝癌に対する治療戦略：基礎的病態解明から前臨床試験まで
夏 目 豊 彰	国立遺伝学研究所分子遺伝研究系 分子細胞工学研究部門	「オーキシンドグロン法」を用いてSMC複合体の多様な役割とその異常に起因する疾患の分子機構を探る
増 富 健 吉	国立研究開発法人 国立がん研究センター がん幹細胞研究分野	TERTの持つ2種類の酵素活性の使い分けの分子機序の解明
松 村 欣 宏	東京大学先端科学技術研究センター 代謝医学分野	糖脂質代謝を制御する新規エピゲノム機構の解明
宮 内 浩 典	国立研究開発法人 理化学研究所 統合生命医科学研究センター	抗インフルエンザウイルスIgA抗体を誘導する呼吸器官微小環境の研究
宮 崎 雄	大阪大学大学院 医学系研究科神経遺伝子学	RNA結合タンパク質を介したポリグルタミン病の病態解明と治療法開発
村 上 和 弘	金沢大学がん進展制御研究所	生体外培養技術を用いた胃がん幹細胞の理解と胃がんに対する真に効果的な治療法の探索
柳 澤 琢 史	大阪大学国際医工情報センター 臨床神経医工学寄附研究部門	慢性疼痛制御機構の解明
山 下 高 廣	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻 分子生体情報学分野	細胞内情報伝達系の低侵襲的人工制御ツールの開発
山 田 健 一	九州大学大学院薬学研究院	脂質酸化代謝産物をターゲットとした加齢黄斑変性疾患治療薬の探索

平成29年度海外共同研究支援助成採択者

8名 (1件 50万円)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関名	共同研究者	共同研究テーマ
古賀浩平	弘前大学大学院医学研究科 脳神経生理学講座	M. Zhuo Dept. Physiology, University of Toronto Canada	前帯状回のシナプス可塑性が及ぼす慢性疼痛行動の解明
櫻井香里	東京農工大学大学院 工学研究院	R. Zubarev Karolinska Institutet Sweden	抗癌活性天然物OSW-1の癌選択的細胞死誘導機構の解明
定岡知彦	神戸大学大学院 医学研究科附属 感染症センター 臨床ウイルス学	A. Venkatesan Division of Neuroimmunology and Neuroinfectious Diseases, Johns Hopkins University School of Medicine USA	ヒト多能性幹細胞由来神経細胞を用いた水痘帯状疱疹ウイルス再活性化機構の解明
坪井直毅	名古屋大学大学院 医学系研究科 病態内科学講座 腎臓内科学	T. Mayadas Center for Excellence in Vascular Biology, Department of Pathology, Brigham and Women's Hospital & Harvard Medical School USA	好中球特異的ヒトFcγ受容体発現マウスを用いた糸球体腎炎バイオマーカー開発
富田泰輔	東京大学大学院 薬学系研究科 機能病態学教室	S. Lichtenthaler Technische Universität München (ミュンヘン工科大学) Germany	網羅的セクレトーム解析による新規自閉症発症関連分子の探索
早河翼	東京大学医学部附属病院 消化器内科	D.L. Worthley University of Adelaide Australia	ヒト遺伝性胃癌家系とそのマウスモデルの網羅的遺伝子解析
山本靖彦	金沢大学 医薬保健研究域医学系 血管分子生物学分野	S.E. Shoelson Joslin Diabetes Center & Harvard Medical School USA	抗炎症薬サルチル酸の標的分子の探索と同定
Woltjen Knut	京都大学iPS細胞研究所 未来生命科学開拓部門	K.T. James ブリティッシュコロンビア大学 Canada	iPS細胞とゲノム編集技術を用いた遺伝性糖尿病の病態解析

平成29年度研究会・シンポジウム開催助成採択者

3名（1件 50万円）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関名	研究会・シンポジウム
豊島 近	東京大学 分子細胞生物学研究所	第15回ナトリウムポンプと関連イオンポンプに関する国際会議 びわ湖大津プリンスホテル（コンベンションホール「淡海」） 2017年9月24日から2017年9月30日まで
松島 綱治	東京大学大学院医学系研究科 分子予防医学分野	第5回国際サイトカイン・インターフェロン学会年会2017 石川県金沢市/石川県立音楽堂/ANAクラウンプラザホテル金沢 2017年10月29日から2017年11月2日まで
宮園 浩平	東京大学大学院医学系研究科 分子病理学分野	第12回国際BMPカンファレンス 東京大学伊藤国際学術センター伊藤謝恩ホール 2018年10月24日から2018年10月28日まで

平成28年度海外留学奨学研究助成採択者

5名（1件 300万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題
永井 利幸	国立研究開発法人国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 インペリアルカレッジ・ロンドン 英国	心不全診療における医療の質とリスクモデル構築に関する日英共同多施設レジストリ研究
永田 安伸	京都大学医学研究科 腫瘍生物学 Department of Translational Hematology and Oncology Research, Cleveland Clinic USA	骨髄異形成症候群における腫瘍発症メカニズムおよびクローン進化の解明
林 周一	国立研究開発法人理化学研究所 多細胞システム形成研究センター 高次構造形成研究チーム Department of Physiology, Anatomy and Genetics, University of Oxford UK	神経活動依存的な脳神経回路形成の制御とその異常によるヒト疾患の分子基盤の解明
宮坂 恒太	東北大学加齢医学研究所 神経機能情報研究分野 Salk Institute USA	脂質代謝亢進ノックアウトマウスの解析とエクササイズ・ピルの開発に向けた基礎研究
森 貴裕*	東京大学大学院薬学系研究科 天然物化学教室 Swiss Federal Institute of Technology in Zurich (ETHZ) Switzerland	非天然型生理活性ペプチド化合物の創出を目的としたペプチド合成酵素の酵素工学研究

* 森貴裕先生は、助成期間中である、平成30年1月に帰国された為、交付金は、550万円となった。

平成29年度海外留学奨学研究助成金採択者

5名 (1件 300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題
小林 枝里	東北大学大学院医学系研究科 National Institutes of Health USA	転写因子間相互作用によるmRNA質的制御メカニズムの解析
中山 絵里	国立感染症研究所ウイルス第一部 QIMR Berghofer Medical Research Institute Australia	チクングニアウイルス感染による関節炎の治療薬開発
長島 駿	東京薬科大学生命科学部分子生化学研究室 Medical Research Council (MRC), Mitochondrial Biology Unit (MBU) UK	細胞死におけるミトコンドリアと小胞体の接着点MAMの制御機構の解明
林 玲 匡	東京大学医学部附属病院病理部 Memorial Sloan Kettering Cancer Center USA	ゲノム, エピゲノムの網羅的解析による癌のクローン進展, 再発と組織形態像の変化
平澤 一法	北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科視覚機能療法学 Moorfields Eye Hospital NHS Foundation Trust and UCL UK	新しい早期緑内障検出方法および眼圧値を考慮した新しい緑内障進行モデルの構築

平成30年度海外留学奨学研究助成金採択者

5名 (1件 300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題
浅島 弘 充	筑波大学医学医療系内科 (膠原病・リウマチ・アレルギー) Yale School of Medicine USA	抗原特異的T細胞の網羅的解析による多発性硬化症の新規バイオマーカー探索
川村 俊 輔*	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (ETH Zurich) Switzerland	ミエロイド系細胞とリンパ球系細胞が分岐・分化する時系列とメカニズムの解明
中嶋 優	東京大学大学院薬学系研究科天然物化学教室 University of Oxford UK	プロリン残基ヒドロキシル化を担うヒト由来 α -ケトグルタル酸依存性酸化酵素の結晶構造解析
横瀬 淳	富山大学大学院医学薬学研究部(医学)生化学講座 テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンター USA	多種多様な感情表現を司る神経回路と統合メカニズムの解明 -感情創出の起源を探る-
若橋 香奈子	神戸大学大学院医学研究科血液内科学分野 Centro Nacional de Investigaciones Cardiovasculares (CNIC) Carlos III Spain	骨髄造血ニッチ制御因子としての好中球-成熟好中球の意外な役割-

*川村俊輔先生は、採択後、平成29年12月20日付辞退。